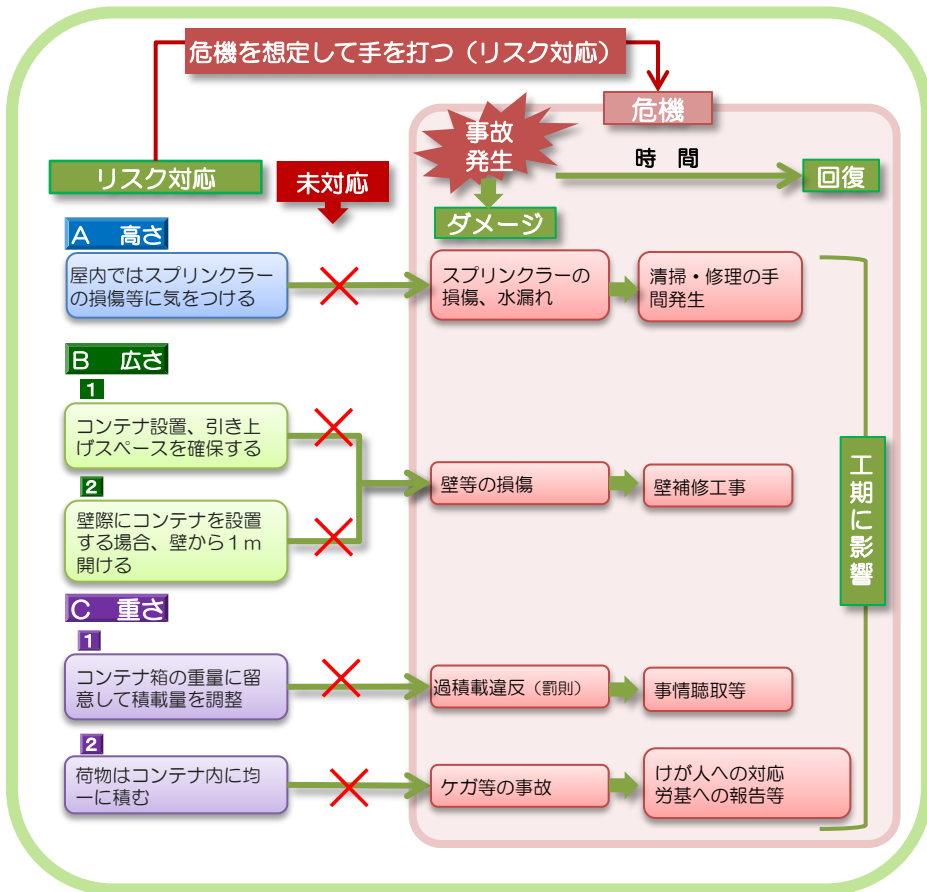


コンテナ車の安全作業のポイント



現場内事故ゼロを目指し、ご協力をお願い致します。



2016.1

コンテナ車の安全作業のために

《現場の方へのお願い》

コンテナ車は、これまで建設廃棄物の収集運搬車両として幅広く利用されて来ましたが、コンテナ車特有の＜物理的特性＞への不理解が原因で、思わぬ事故を招いてしまうことも少なくありませんでした。

事故を招くと、その復旧に時間やお金がかかるばかりか、工期そのものにも影響を及ぼすことが考えられます。そのような危機を未然に回避するためには、この＜物理的特性＞に由来するリスクを踏まえた対応を取る必要があります。

このパンフは、これまでの事例を踏まえ、現場内のコンテナ作業に伴うリスク対応策を「A 高さ」「B 広さ」「C 重さ」の視点から図解したものです。

是非、ご一読頂き、現場ご担当者様とのよりよいコミュニケーションを通じたリスク対応を行い、重大災害（ダメージ）の防止に努めて参りたいと思います。

※ リスク (risk) : ある行動（あるいは行動しないこと）によって、危険に遭う可能性や損害をこうむる可能性のこと（Wikipedia参考）

万ーの場合に
備えましょう！



建設廃棄物協同組合

● リスク回避の為に留意すべき コンテナ車の物理的特性

A 高さ



■ コンテナ車の最頂点は「空荷コンテナ引き上げ時の最頂点 (4t : 3.5m (2t : 2.7m)) + 荷物の厚み」で考えます。

B 広さ 1



■ コンテナ引き上げ時には、長さ1.3m (4t) 9m (2t) の作業スペースの確保が必要。

C 重さ

■ 廃棄物の積込重量は、コンテナはこの重量 (4t : 1t, 2t : 0.6t) をマイナスして考えます。

2 真っ直ぐになる力が働く



■ コンテナ引き上げ時に、コンテナがアームロール車に対し真っ直ぐになろうとする力が働きます。

C 重さ 1 コンテナ箱の重量に留意し、過積載に注意!

【積み込み時の注意点】

コンテナ箱の重量を考慮し、積載物の量を積載重量の目安をご留意下さい。

- ・ 4tコンテナ (6m²・8m²) ⇒ 箱重量1t+荷物3t=4t
- ・ 2tコンテナ (4m²) ⇒ 箱重量0.6t+荷物1.4t=2t

【想定リスク】

コンテナ引き上げ時に車両フロントが浮き上がる等の危険があるのみか、過積載で道交法違反に問われる。

※ 過積載違反に関する詳細は、組合パンフ「過積載は絶対にしません!」をご参照下さい。

品目	混廃	がれき	石膏ボード
比重 (t/m ³)	0.3	1.6	0.5
積込容量 (m ³ /箱)	4tC 8	1.8	6
	2tC 4	0.8	2.8

引き上げ時にフロントが浮き上がり危険



C 重さ 2 荷物はコンテナ内に均一に積む

【積み込み時の注意点】

壁際設置のコンテナの場合、積み込み側に片寄って廃棄物が集積されがちになる。廃棄物の集積の際は、コンテナ全体に行き渡り、無駄な空間を作らないようにして下さい。

【想定リスク】

コンテナ引き上げ時に、コンテナが重い側に傾き、コンテナ脱落もしくは車両横転する危険があります。

引き上げ時に、コンテナが重い側に傾く。



A 高さ 屋内ではスプリンクラーの損傷等に気をつける

【スプリンクラー設置現場での留意点】

コンテナ引き上げ時にスプリンクラーと接触しないよう、荷物の詰め過ぎにはご注意ください。

【想定リスク】

コンテナ引き上げ時に、コンテナ積み荷の最頂点が、スプリンクラーにあたり、衝撃でスプリンクラーから消火液 (水) が噴出して、辺り一面が水浸しになってしまいます。結果、清掃やスプリンクラーの修理等にお金と時間がかかり、現場工期にも悪影響を及ぼします。



スプリンクラー等で天井が低い場合、コンテナ車の最頂点は、「空荷コンテナ引き上げ時の最頂点+荷物の厚み」となります。事故を防ぐために、積み荷をならして荷の高さを低くする必要があります。

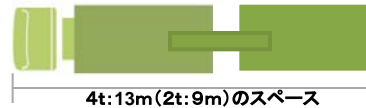
B 広さ 1 コンテナ設置、引き上げのスペースを確保する

【コンテナ設置・引き上げに必要なスペース】

4tコンテナ設置や引き上げ時には、長さ1.3m (2t : 9m) の作業スペースの確保が必要です。(「引き上げ」は、コンテナ前に資材等が置かれて狭くなる場合をいう)

【想定リスク】

スペースが狭いために、設置・引き上げに時間が掛かったり、無理な作業によって建物等との接触の危険が生じます。これが現場工期にも悪影響を及ぼします。



4t:1.3m(2t:9m)のスペース



4t:1.3m(2t:9m)のスペース

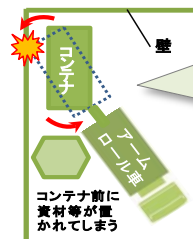
B 広さ 2 壁際にコンテナを設置する場合、壁の損傷に注意!

【壁際にコンテナ設置の場合の留意点】

- ① 壁際に設置する場合、壁から1m離してコンテナを設置して下さい。
- ② コンテナの前 (フック側) に資材などのものを置かないで下さい。

【想定リスク】

コンテナの角が壁にぶつかり、壁に損傷が生じ、補修にお金と時間がかかり、現場工期にも悪影響を及ぼします。



1) 図の場合、コンテナを引き出す際、アームロール車に対してコンテナが真っ直ぐになろうとする力が働いて、コンテナ後方の角が進行方向の反対側に跳ねて、壁にあたってししまう。

2) アームのフックがコンテナにかかりにくく、フックのかかりが浅い場合、引き上げ時にコンテナを脱落させる危険がある。